

株式会社メディビック
個人投資家向け会社説明会

2005年11月22日

個人に適した創薬の実現を目指して

株式会社メディビック
(証券コード2369 東証マザーズ)

<目 次>

第1章 バイオと医療

- P04 ■世界の課題とバイオ産業の成長
- P05 ■ヒトゲノム
- P06 ■遺伝子とは
- P07 ■DNAと遺伝子の関係
- P08 ■SNP(スニップ)とは
- P09 ■遺伝子と薬の関係
- P10 ■SNPによる解析
- P11 ■遺伝と環境
- P12 ■IT・BTの進歩と創薬
- P13 ■オーダーメイド医療の実現へ
- P14 ■バイオ技術を利用した次世代医療へ
- P15 ■新薬をつくりだすプロセス

第2章 メディビックのビジネス

- P18 ■テーラーメイド創薬とは
- P19 ■テーラーメイド創薬がもたらす効果(製薬企業)
- P20 ■メディビックのビジネスモデル
- P21 ■グループ経営
- P22 ■株式会社メディビック

- P23 ■メディビックグループ
- P24 ■対象マーケット
- P25 ■メディビックの強み
- P26 ■グローバルネットワーク
- P27 ■主なトピックス(1)
- P28 ■主なトピックス(2)

第3章 メディビックの業績動向

- P30 ■売上高・当期純利益推移
- P31 ■今後の成長プロセス
- P32 ■2005年期 第3Qまでの事業活動サマリー(1)
- P33 ■2005年期 第3Qまでの事業活動サマリー(2)
- P34 ■今後の展望(1)
- P35 ■今後の展望(2)
- P36 ■研究開発費の推移
- P37 ■メディビックが目指すもの(再確認)
- 巻末 ■用語集

第1章 バイオと医療

※ ★ は巻末の用語集もご参照ください

■ 世界の課題とバイオ産業の成長

現在の世界の三大課題を解決に向けるバイオ産業は
2010年には国内市場規模25兆円に膨らむ。(経済産業省試算)

＜現在の世界の課題＞

『生きる』

医療・高齢化問題

『食べる』

食料供給問題

『暮らす』

環境・エネルギー問題

国際レベルで解決へ

2010年市場 国内25兆円 世界230兆円

バイオ医療産業 8.4兆円

バイオ食料産業 6.3兆円

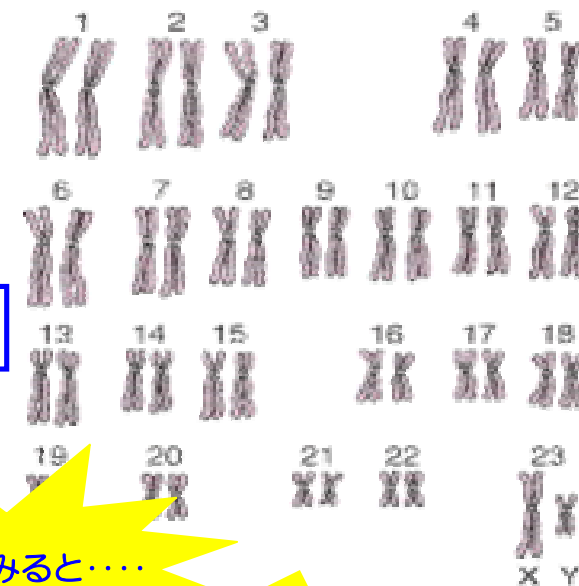
バイオ環境・バイオプロセス産業 4.2兆円

バイオツール・情報産業 5.3兆円

■ ヒトゲノム ～ヒトの体をつくる設計図

ヒトゲノムとはヒトの遺伝子情報の全てを指す。

染色体



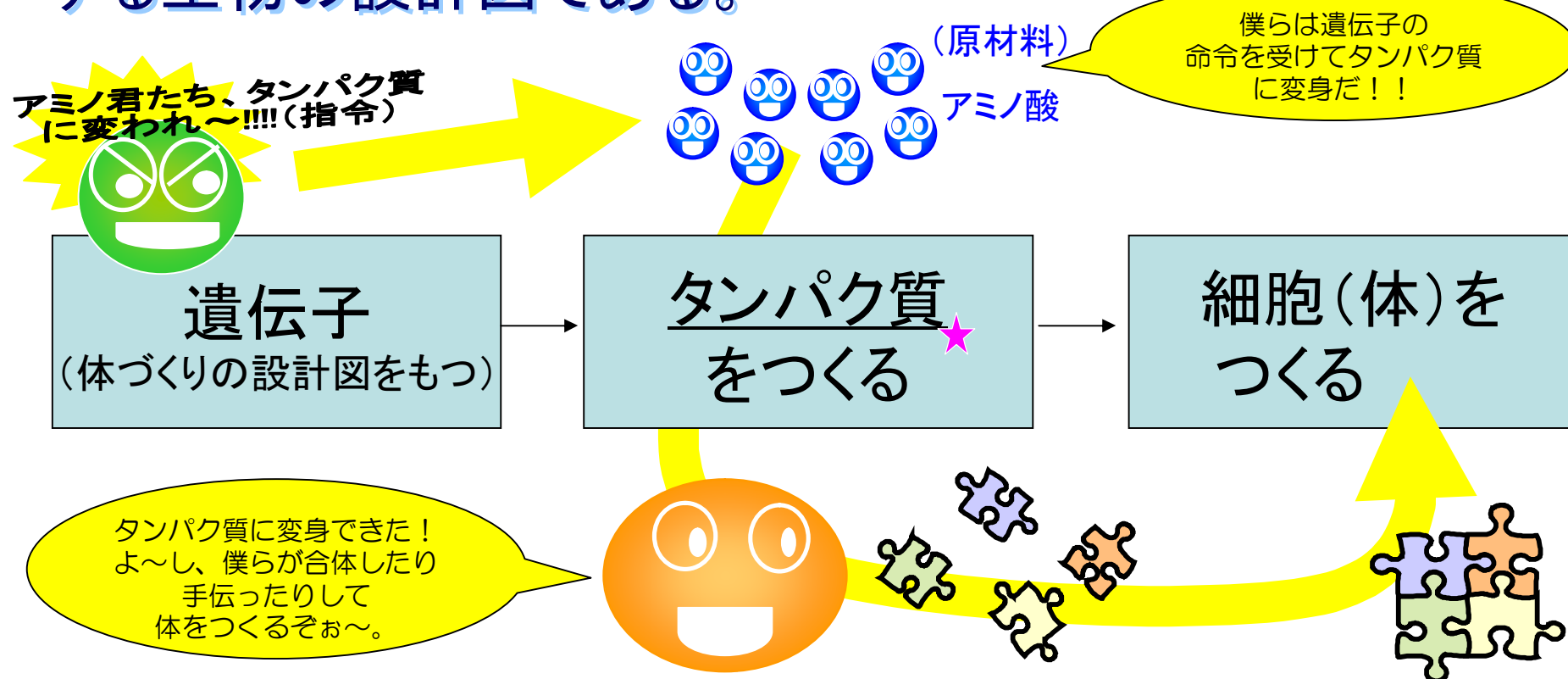
・臓器＞組織＞細胞(約60兆個)

＞染色体＞DNA(約30億塩基対)＞遺伝子

『健康』＝細胞の活動が健全である
⇒細胞が正常でないと『病気』になる。

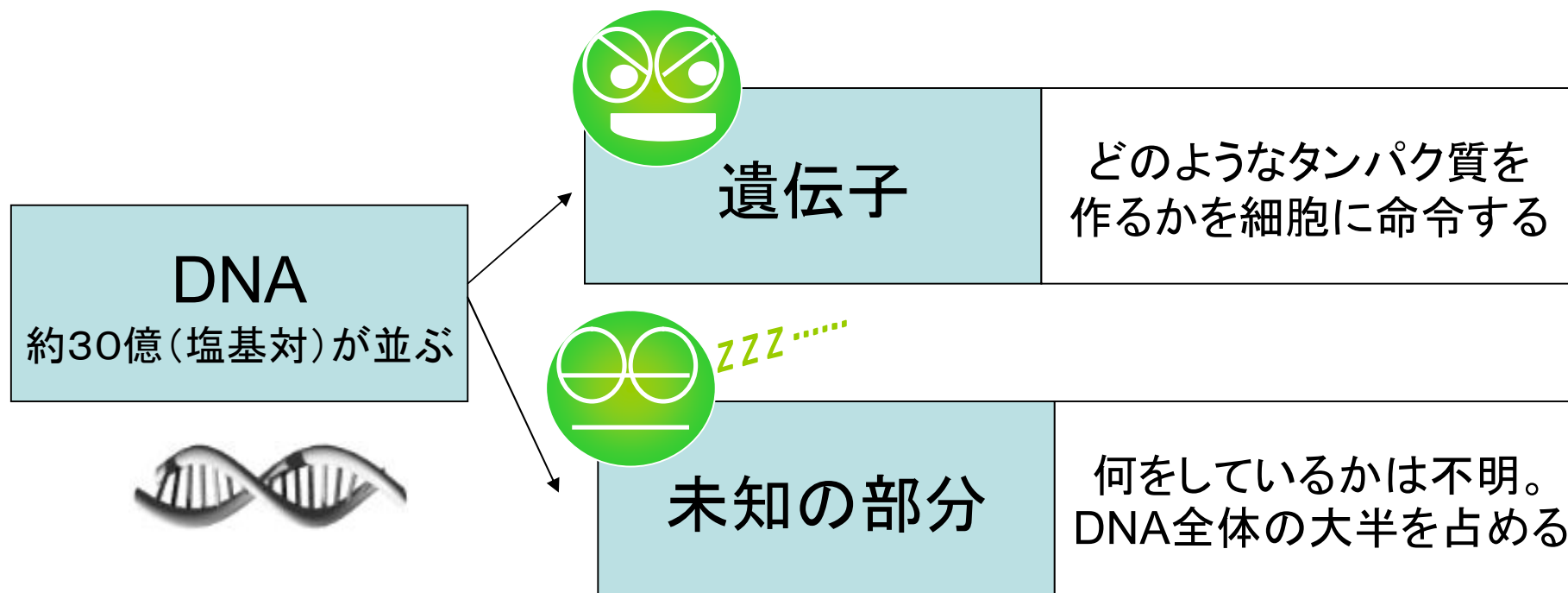
■ 遺伝子とは

遺伝子は遺伝情報を担ってタンパク質合成を命令する生物の設計図である。



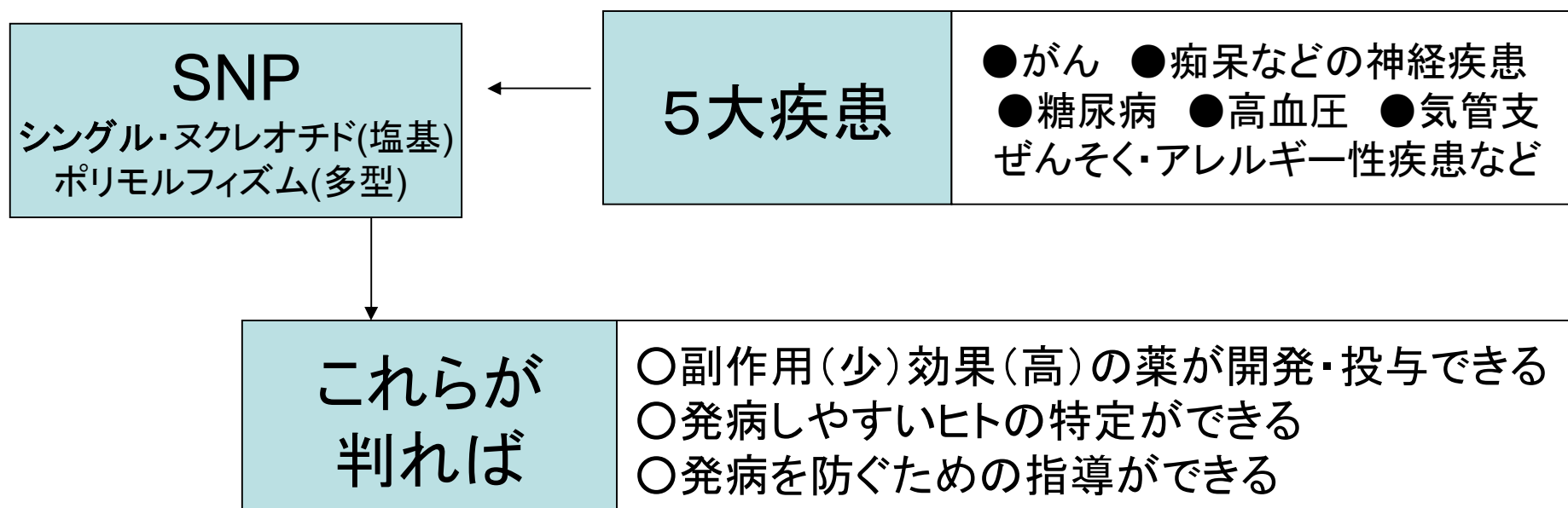
■ DNAと遺伝子の関係

DNAの一部が遺伝子。DNAは染色体の中
でらせん状にある梯子部分のことで約30億塩基対ある。



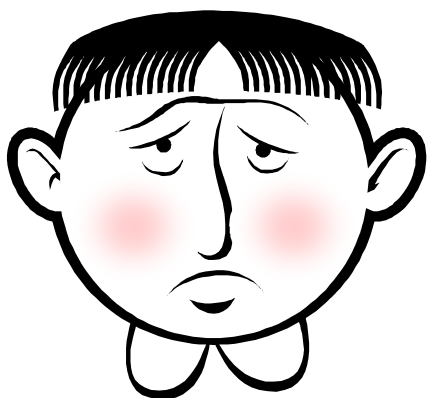
■ SNP(スニップ)とは

遺伝子には1000個(塩基対)に1個の割合で違いがあり、SNPと呼ぶ。医療への応用で疾患予防や創薬へ。



■ 遺伝子と薬の関係

＜アルコールの例＞



アルコールに弱い人

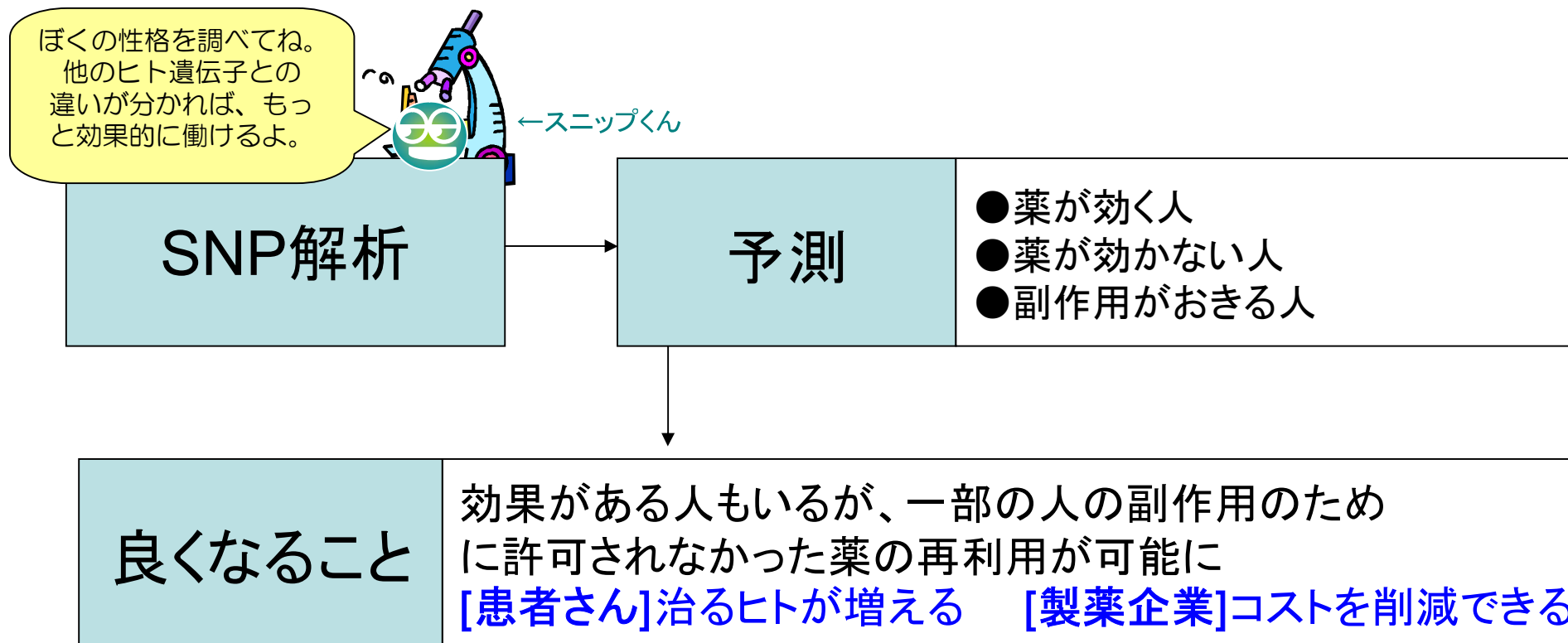


アルコールに強い人

遺伝子の違い

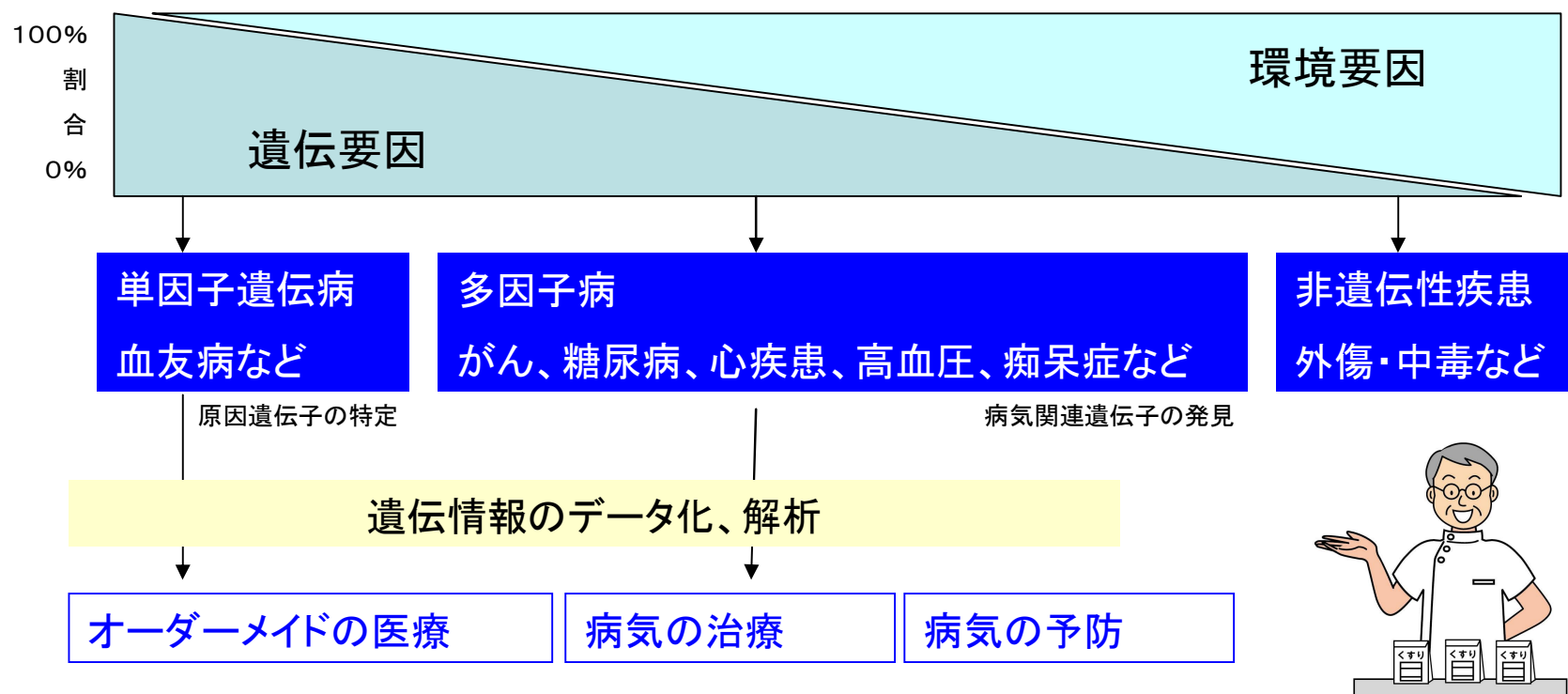
■ SNP(スニップ)による解析

SNP解析で、薬の効き目や副作用が予測できる。



■ 遺伝と環境

ヒトの一生を支配する遺伝と環境。病気の発症には
遺伝と環境の両方が関係している。



■ IT・バイオテクノロジーの進歩と創薬

あらゆる医療分野での判別ツールとしてバイオマーカーの研究が進む。治療医学から予防医学へ。

＝製薬企業＝

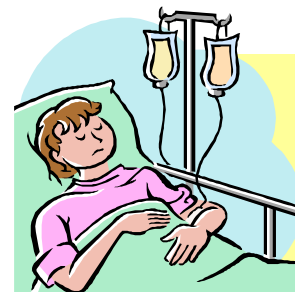
開発費用(大)

開発期間(長)



＝患者さん＝

薬害・副作用



バイオマーカーの誕生

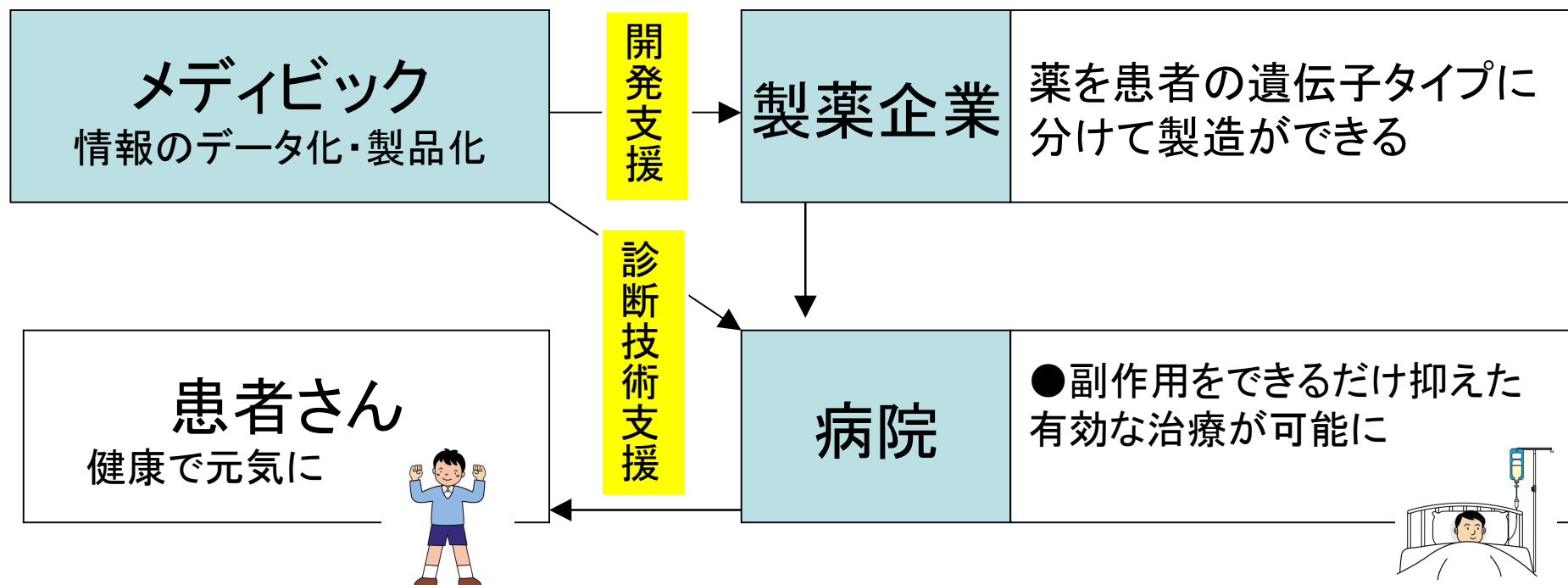
開発コストや期間を
削減可能に！



体質に合った薬の服用
で副作用減少へ

■ オーダーメイド医療の実現へ

オーダーメイド医療(テーラーメイド医療)の実現で、患者さんへ最適と思われる薬の組み合わせが選択でき、調剤量も調合される。個人に適した診断・治療が可能に。



■ バイオ技術を利用した次世代医療へ

21世紀は「生命科学の時代」。バイオテクノロジーとITの融合により、日常生活は激変する。医療においては、治療法の選択の幅が広がり、個人重視の形に発展する。

＜オーダーメイド医療への最近の国際的な流れ（例）＞

・肺がん治療薬「イレッサ」は、副作用で社会問題になったが、製造元のアストラゼネカ社の「東洋人には効果がある」との臨床試験結果に信頼性があることを厚労省が発表したこともあり、神奈川県立がんセンターと東京大医科学研究所で、「イレッサ」の有効性診断の臨床研究を7月から始めた。（2005年6月30日 記者発表資料等から抜粋）

・日・米・英・加・中・ナイジェリアの6カ国の国際ハップマッププロジェクトにてオーダーメイド医療の基盤となる体質の遺伝情報地図が完成（2005年10月27日 英科学誌ネイチャー）

■ 新薬を創り出すプロセス

新薬の開発期間は長く、総予算は数百億円にも達する。
その反面、成功する確率は非常に低い。

あらゆる化学物質から
「薬の候補」となる物質
を選ぶ。

動物実験で効き目と
安全性を調べる。

ヒトで効き目と安全性を
調べる。

国の
審査

「新薬」として
発売する。

第2章 メディビックのビジネス

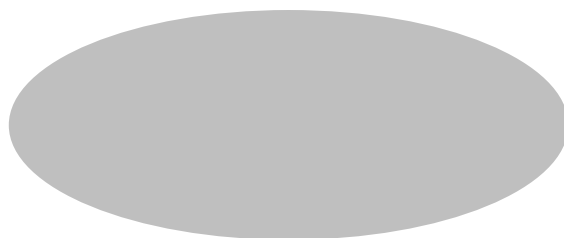
※ ★ は巻末の用語集もご参照ください

■ 遺伝子型を判別するテーラーメイド創薬とは

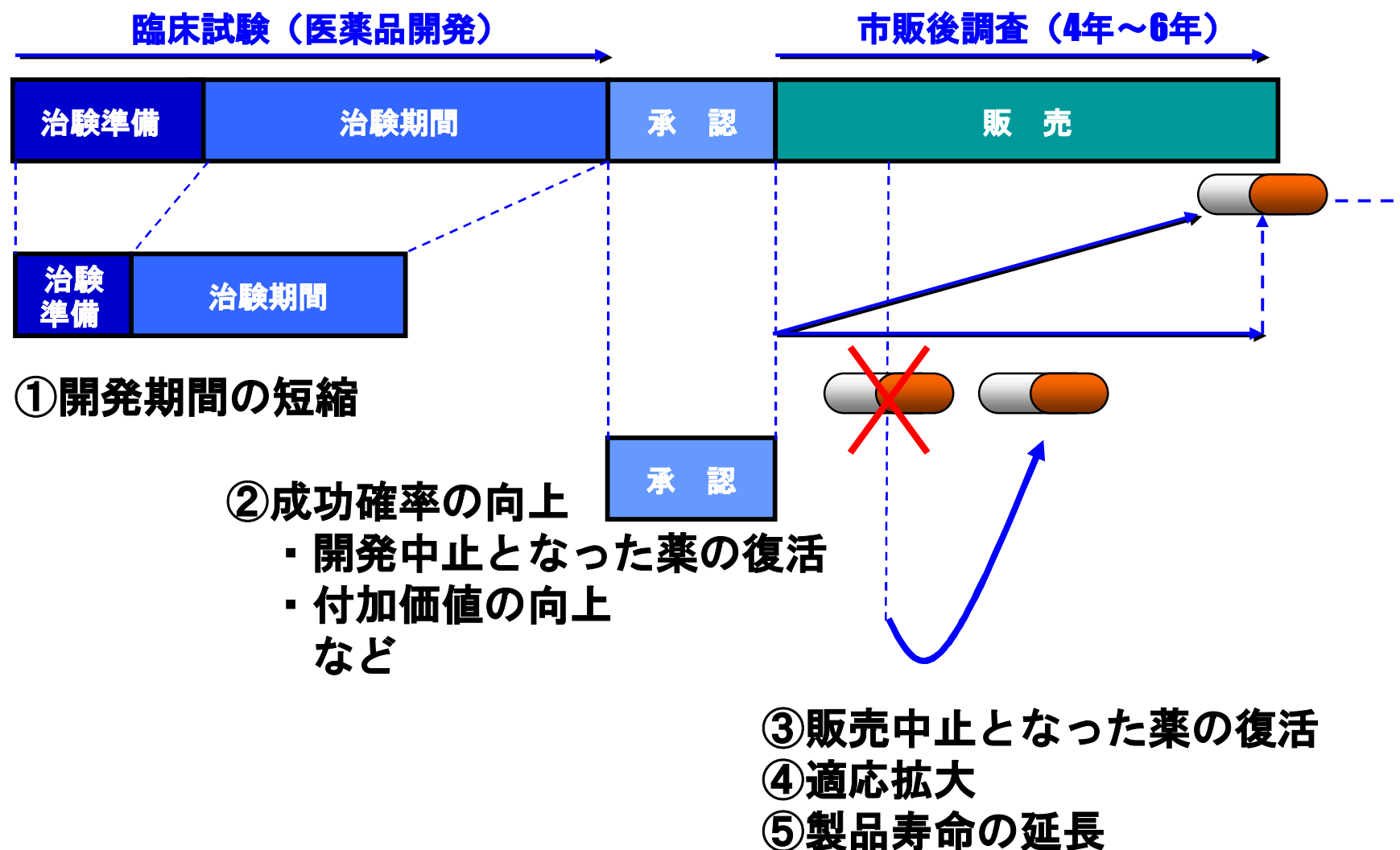
遺伝子型によって
有効な人、副作用
のでる人を判別し、
薬を開発すること。

遺伝子型を調べる

インフォマティクスを活用



■ テーラーメイド創薬がもたらす期待効果(製薬企業)



■ メディビックのビジネスモデル

コンサルティング事業(2000年12月期より)

新薬研究開発とITという
各視点から顧客企業の
新薬開発を効率化する。

研究開発
ノウハウ

インフォマティクス事業(2002年12月期より)

インフォマティクス技術を提供
することにより顧客企業の新
薬開発を効率化する。

インフォマティクス
技術

創薬事業(2004年12月期より)

副作用のない個人に適した
医療の実現を目指す。

新薬研究開発への参画
による患者の特定

研究開発マーケット

薬の効くヒト



副作用が出るヒト



薬の効かないヒト



医療マーケット

■ グループ経営

コンサルティングを軸とした事業構成で展開



※インフォマティクスは、創薬支援技術などを提供するサービスです。

■ 株式会社メディビック



■ メディビックグループ

メディビックでは、グループ経営と世界中の提携ネットワークの効果的な活用で、高度な経営を行っている。

ANEXUS
PHARMACEUTICALS

メディビックのUS戦略子会社

◇アネクサス・ファーマ
シューティカルズ・インク

[資本金] 51万米ドル
[事業内容] シリコンバレーに位置し、先端医療をはじめとする欧米の最新技術情報の拠点。コンサルティング事業や技術開発支援などを行う。

MediBicAlliance
MERCHANT BANKERS

メディビックの戦略投資会社

◇(株)メディビック・アライアンス

[資本金] 6億6000万円
[事業内容] 投資事業、ファンド事業、投資育成事業、M&Aアドバイザー事業などを行う。

AMG
Advanced Medical Gateway

株式会社ラボとの合併会社

◇(株)アドバンスト・メディカル
・ゲートウェイ

[資本金] 1010万円
[事業内容] CPC★の運営支援、先端医療技術の製品化などを行う。

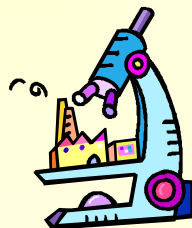
※2005年4月設立の子会社 (株)SeedSeek は同年10月にMBOにより独立

■ 対象マーケット

研究開発費マーケット

製薬会社、バイオ企業、
大学や研究機関等、
新薬研究開発を行うため
に資金を投下する市場

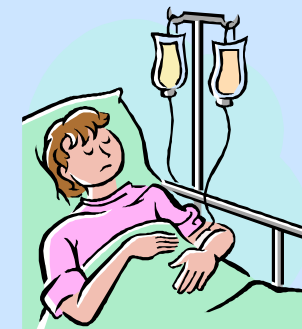
参考 研究開発費合計6,570億円
(2004年度 主要製薬企業12社)



医療マーケット

病院等が医薬品購入の
ために資金を投下する
市場

参考 抗がん剤市場規模3,800億円
(2004年度)



■ メディビックの強み

- 欧米のライフサイエンストレンドをいち早く把握できる。
- 欧米を始めとした国内外のバイオ最先端企業との結びつき（グローバルネットワーク）が強い。
- 企業投資により事業機会の拡大が行える。

■ グローバルネットワーク



メディビック・グループでは、[Anexus Pharmaceuticals, Inc.](#)から得られる情報をもとに、海外企業との業務提携・資本提携(メディビック・アライアンスを経由)を行っている。

■ 主なトピックス(1)

◇ ReaMatrix Group (インド・アメリカ)

診断や創薬に使用できるバイオマーカーの共同開発★

◇ Strand Life Sciences 社 (インド)

人工知能プログラムを使用した創薬支援ソフト共同開発



■ 主なトピックス(2)

◇投資・投資育成事業が飛躍的に成長

◇抗がん剤、来期より国内臨床試験へ

◇検体バンキング事業開始

TRI(臨床研究情報センター) 神戸市



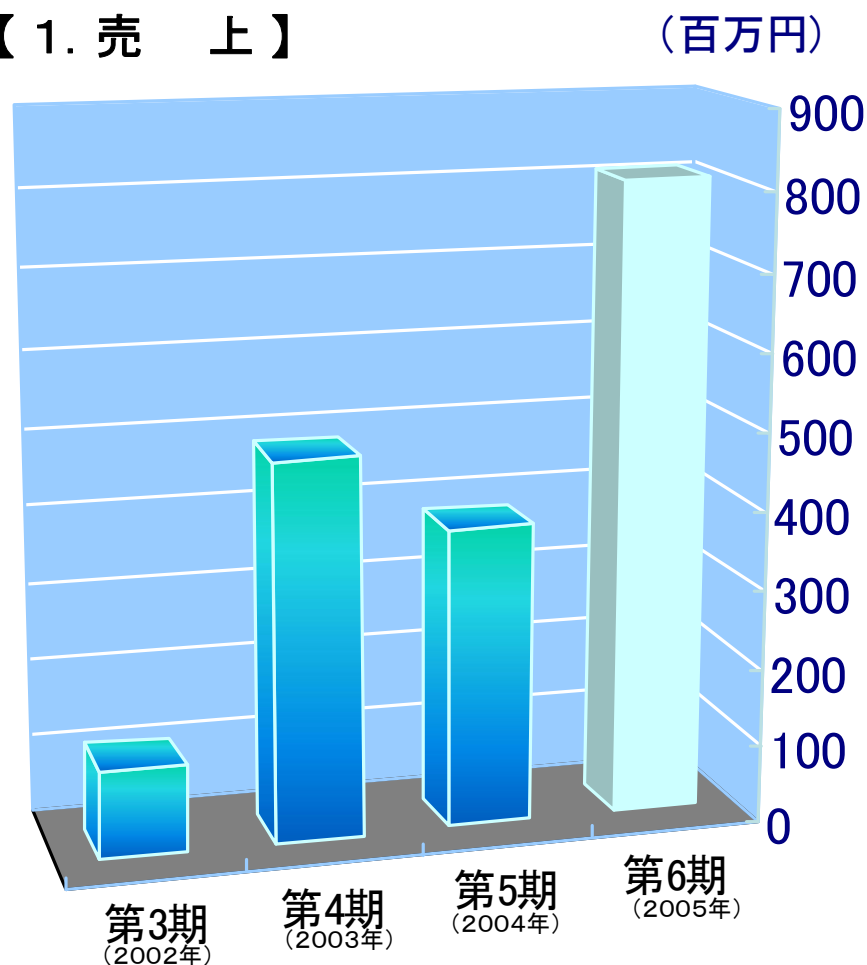
第3章 メディビックの業績推移

■ 売上高・当期純利益推移

※当社は12月決算です

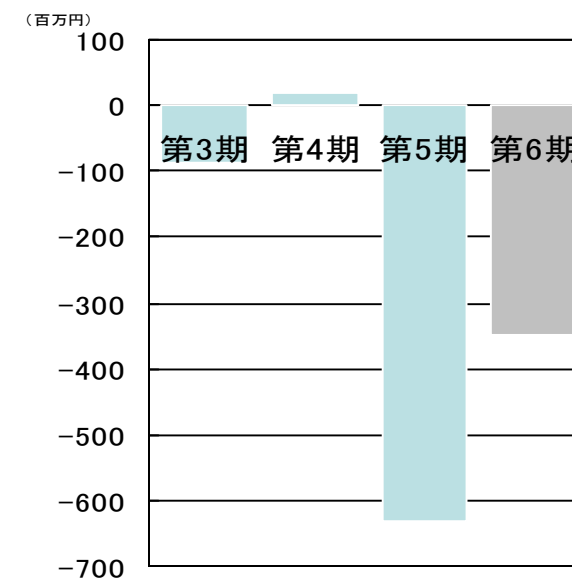
(単位: 百万円)

【 1. 売 上 】



	第3期 (2002)	第4期 (2003)	第5期 (2004)	第6期 (2005) (予定)
売上高	112	484	385	809
当期純損益	△87	20	△632	△348

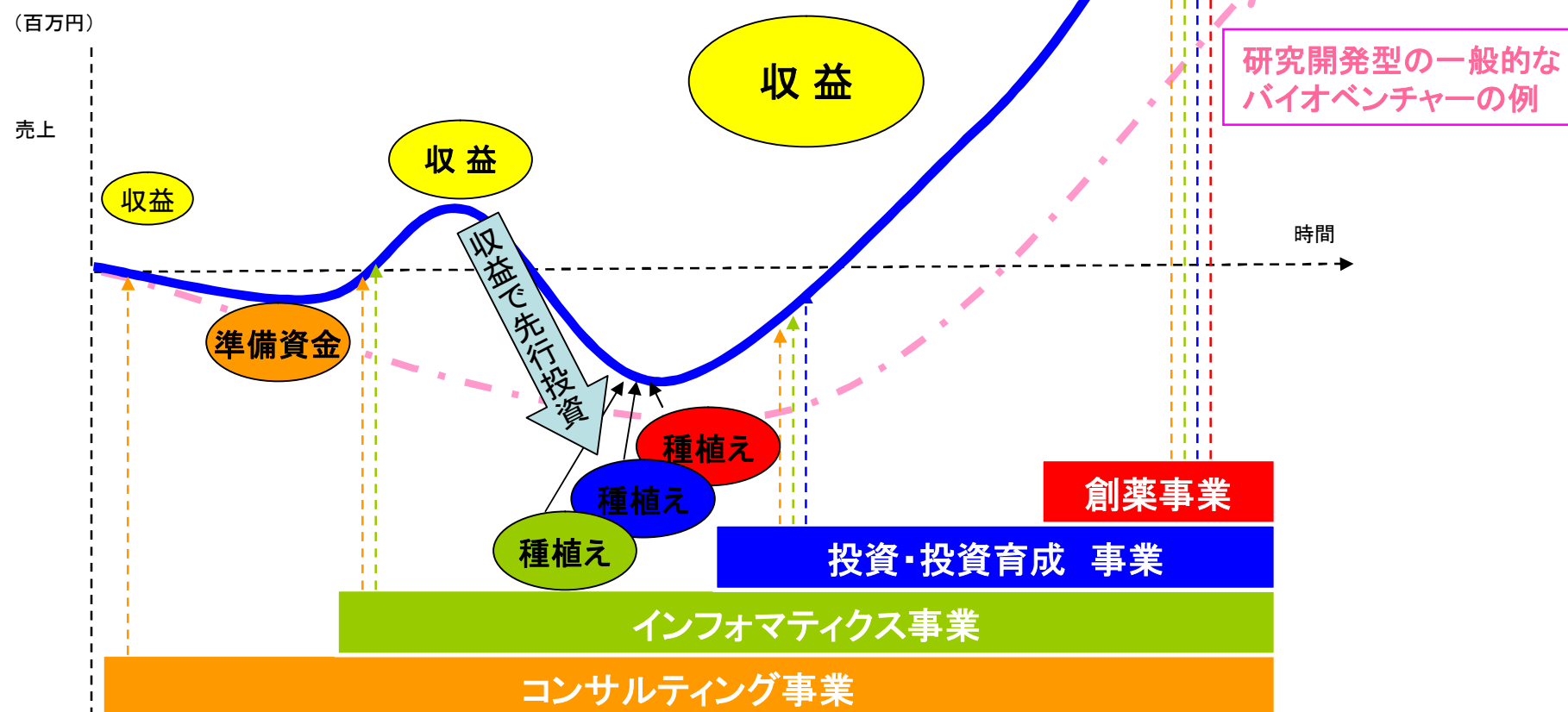
【 2. 当期純利益 】



■ 今後の成長プロセス

事業開拓型の
メディビックの場合

メディビックは、コンサルティング事業、インフォマティクス事業、投資・投資育成事業などにより、収益基盤を確保するとともに、国内外の企業提携を通じて、ローリスク・ミドルリターンの、安定的な企業成長を目指している。



■ 2005年 第3Qまでの事業活動サマリー(1)

○コンサルティング事業

- ・国内外で開発支援のニーズを受け、堅調。
- ・投資・投資育成事業関連は今期から分離している。

○インフォマティクス事業

- ・遺伝子解析⇒バイオマーカー支援へ事業領域を拡大。
- ・かずさDNA研究所との新薬開発等支援事業の
共同開発を開始(9月～)

※インフォマティクスは、創薬支援技術などを提供するサービスです。

※第3Q＝第3四半期(クォーター)の略称です。当社は12月決算です。

■ 2005年 第3Qまでの事業活動サマリー(2)

○創薬事業

- ・現在は研究開発段階だが、来期より抗がん剤の国内臨床試験を開始予定。

○投資・投資育成事業

- ・第一製薬(株)と共同で医薬品ベンチャー向け投資ファンドを共同設立。
- ・投資銀行業務を開始。
- ・アジア企業十数社に投資。1社は9月に上場済。

■ 今後の展望(1)

コア・コンピタンスに経営資源を集中

○コンサルティング事業

- ・メディビックの中核事業として成熟を目指す。

○インフォマティクス事業

- ・バイオマーカー支援事業を推進する。
- ・かずさDNA研究所との共同開発を推進する。

※コア・コンピタンス＝企業の競争力の核となる得意分野のこと

■ 今後の展望(2)

○創薬事業

- ・リスクを少なく、効率的に事業を展開する。

○投資・投資育成事業

- ・今期の成長事業の一つとして、来期以降も積極的に展開する。

■ 研究開発費の推移

※参考

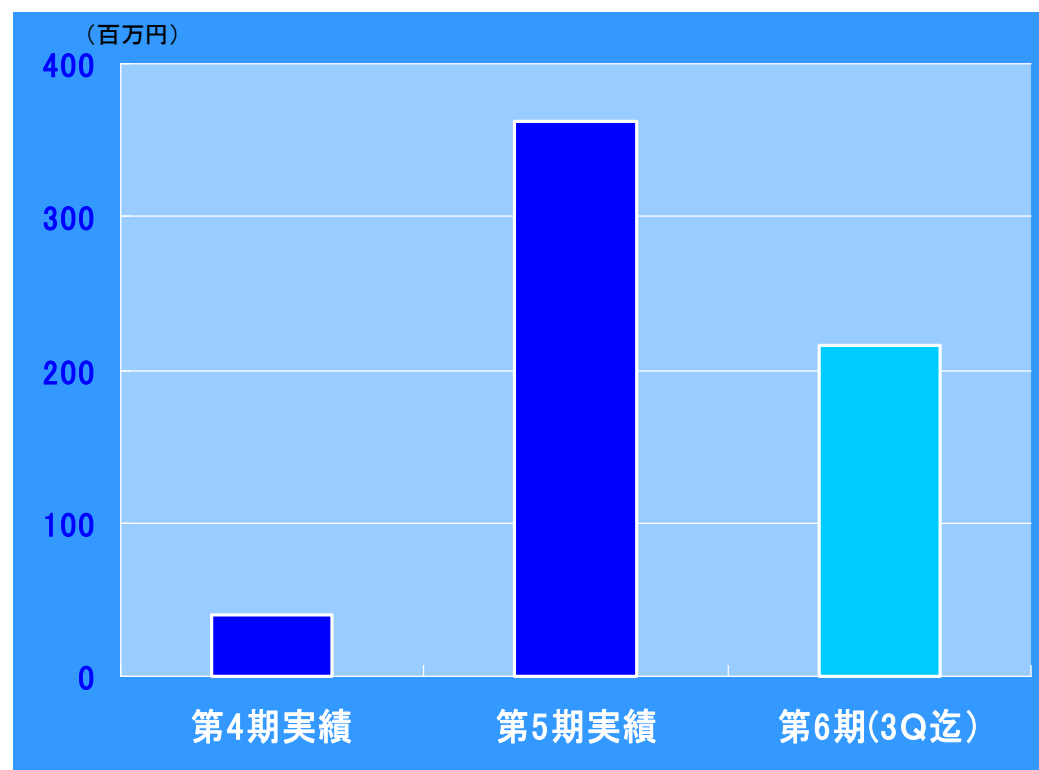
第5期第3四半期連結会計期間

297百万円

(単位:百万円)

研究開発費	<2003年> 第4期実績	<2004年> 第5期実績	<2005年> 第6期 第3四半期実績
	40	363	216

研究開発費はインフォ
マティクス事業や創薬
事業の前倒しなどで
第5期に増加



■ メディビックが目指すもの(再確認)

- テーラーメイド創薬の環境づくり
- 欧米並みの治療薬開発の実現
- 国内医療レベル向上への貢献

★ 用語集(1) ★

※掲載ページ順に掲載しています

・バイオ環境・バイオプロセス産業 (P4)

微生物による発酵などの生産プロセスを応用して、地球の温暖化や廃棄物などの克服や、環境と調和した循環型の産業システムへの変革を促す産業のこと。

・ヒトゲノム (P5)

ヒトとは「人間」のことで、ゲノムとは、遺伝子Gene＋染色体の末尾Chromosomeクロモソームを合わせた造語。ヒトの遺伝情報すべてを指す。

ヒトには約60兆個の細胞があるが、それぞれの核にある染色体(23対46本)のなかに二重らせん状で(梯子がねじれたような形で)DNAが梯子の柵のように存在している。このDNAの中にある遺伝子(遺伝情報)の全てをヒトゲノムという。

・臓器＞組織＞細胞＞染色体＞DNA＞遺伝子 (P5)

ヒトの体を分解すると、まず『臓器』などに分かれる。臓器などは、『組織』からつくられ、その組織は『細胞』によってつくられる。ヒトの体の全ての細胞の数は約60兆個ある。

細胞の中には核があり、そのなかに23対の『染色体』が含まれている。染色体のなかに二重らせん状で『DNA』が梯子の柵のように存在している。

染色体全23本分つなぎ合わせた総数である、全DNAの数は約30億(塩基対)。DNAは、4つの塩基(Aアデニン、Cシトシン、Gグアニン、Tチミン)の組み合わせで出来ている。

DNAの一部に、「ヒトの体をつくることのできるタンパク質の合成」を命令できるものがある。これを『遺伝子』という。これまでは、遺伝子はDNAの3～5%ほどしかないとされていて、遺伝子と呼ばれない残りのDNAの部分が未解明だった(もしくはガラクタと呼ばれていた)。しかし、近年になって、その部分にも何かしらの役割があることが指摘され、世界中で研究され続けている。

ビデオテープに例えるならば、ヒトの体にはいつているビデオテープ全巻が染色体、ビデオテープ1巻1巻がDNA、その中で、断片的に録画されている箇所がDNAといえる。

・タンパク質 (P6)

タンパク質は、20種類のアミノ酸が数十～数千個結合することによって構築されている。このアミノ酸の配列をタンパク質の1次構造と呼ぶ。タンパク質は1次構造が決定すると、2次構造と呼ばれる立体構造を形成する。2次構造には筒状構造と板状構造の2種類がある。これらの2次構造同士の配置が3次構造であり、タンパク質の機能はこの構造によってかなりの部分が規定される。そのため、3次構造に関する知見は、タンパク質の機能解析や人工タンパク質のデザインにあたって、非常に重要な役割を果たす。

タンパク質はこのように構造を拡大して細胞をつくりあげることから、人間の体をつくり健康を維持する大切な役目を果たしている。

ちなみに、『プロテオーム』は細胞や組織において発現しているタンパク質の全体像のことを指す。

★ 用語集(2)★★

・SNP(一塩基多型) (P8,10)

スニップ。シングルのヌクレオチド(塩基)ポリモルフィズム(多型)の略称で、「一塩基多型」とも呼ぶ。ヒトには約30億個の塩基があり、1000～2000個に1個の割合で、各個人によって異なる配列部分が存在し、これをSNPと呼ぶ。SNPのタイプにより、遺伝子を元に体内で作られる酵素などのタンパク質の働きが微妙に変わる。言い換えれば、病気へのかかりやすさや医薬品への反応が異なり、SNPのパターンが、病気のかかりやすさ・副作用の発生率などの体質の元になるといえる。

・バイオマーカー (P12,25,33)

人が発する生体情報を数値化・定量化した指標のこと。血糖値は糖尿病のバイオマーカー。この他にアディポネクチン、TNF- α 、PAI-1など、病態を把握する上で重要なバイオマーカーが次々と開発され、臨床の場でも活用されている。

・(バイオ)インフォマティクス (P17,19,20,30,31,33,35)

ゲノムの塩基配列情報やタンパク質の構造情報などをコンピューター処理して活用する技術のこと。コンピューターを用いた遺伝子およびタンパク質の構造・機能解析に始まり、それらの分子の生体内での作用や発現レベル、相互作用、病態との関わりなどの情報を含んだ生体情報解析あるいはデータベース化するようなシステムの総称。情報科学と生命科学の融合領域で、生命情報科学、あるいは、生物情報科学と訳される。

・テーラーメイド創薬® /テーラーメイド(オーダーメイド)医療 (P17,18,35)

「テーラーメイド創薬®」とは、一般の方々の理解を深めるために株式会社メディビックが独自に作り出した造語で商標登録しているもの。遺伝子型によって、薬の有効な人、副作用の出る人を判別し、薬を開発することをいう。薬の種類や量を決めて個人に適した診断や薬の投与ができ、個人に適した診断や治療を行うオーダーメイド医療に役立つ。

・CPC (Cell Processing Center) (P22)

遺伝子治療、細胞治療、再生医療のための施設のこと。

副作用の少ない、効果の高い
テラーメイド創薬の支援を行う

株式会社メディビック
www.medibic.com

2004年12月 2004年デロイトトウシュートーマツアジア太平洋地域テクノロジーFast500 第20位
2004年09月 2004年デロイトトウシュートーマツ日本テクノロジーFast50 第1位
2004年02月 2003年度創業ベンチャーフォーラム 経済産業大臣賞（起業家部門）
2004年02月 ダイヤモンド経営者倶楽部協議会2003年上場企業表彰
2004年01月 日本経済新聞社「2004年期待する新興企業」18位
2003年12月 日本経済新聞社「2003年ベストIPO」16位

個人投資家向け会社説明会

2005年11月

株式会社メディビック・アライアンス

Merchant Bank for Life Sciences



1. メディビック・アライアンスとは

メディビック・アライアンスは、
「人」「スピード」「イノベーション」「融合」
をキーワードに、アジア市場を中心としたライフ
サイエンス分野の事業支援、ファイナンシャル
サービスを提供する新しい *MERCHANT BANK*
です。

2. メディビック・アライアンス 会社概要

本社所在地	東京都千代田区霞が関一丁目4番2号 大同生命霞が関ビル8F
設 立	2004年4月5日
資本金	6億6,000万円 メディビック100%
代表取締役	小林 光（株式会社メディビック専務取締役）
事業内容	投資事業 ファンド事業（投資顧問業登録 関財第1377号） 投資育成事業 M&Aアドバイザリー事業

3. メディビックグループの事業セグメント



4. メディビック・アライアンス役員紹介(1)

－ 代表取締役社長 (C.E.O.) 小林 光

- ・ 早稲田大学(B.S.)。米国University of Virginia, Darden Business School (M.B.A.)。大和証券、プリヴェチュール・証券株式会社を経て、2001年2月株式会社メディビック取締役に就任(現在、株式会社メディビック専務取締役)。産学連携を含め、日本の大学内テクノロジーの発掘及び企業プログラムをHands-onで手がける。テクノロジー企業のBuy-out、M&A、IPOなどフィナンシャルアドバイザーも務める。株式会社メドジェル、ハイクリップス株式会社など他のバイオテック/ヘルスケア企業の取締役を兼務。

－ 取締役副社長 改田 泰康

- ・ 1991年一橋大学法学部卒業。1997年ニューヨーク大学経営大学院修士(MBA)取得。大和証券、ソシエテ・ジェネラル銀行、ベアー・スターンズ証券にて企業金融実務に携わり、社債・株式による資金調達をはじめ、企業の保有する様々な資産を証券化し財務戦略を支援する。また、三洋電機クレジットにてコンサルタントとして中小企業の投資・育成、M&Aによる事業戦略の立案実行、企業再生に携わっていた。

－ 取締役 橋本 易周

- ・ 1983年大阪大学医学部卒業。米国ハーバード大学医学部研究員、ペンシルバニア大学医学部病理学部助教授・准教授を勤める。日本シンテックス株式会社(現中外製薬株式会社)免疫研究所所長、ロシュバイオサイエンス・バイオテクノロジー部部長、日本グラクソ株式会社(現グラクソ・スミスクライン株式会社)筑波研究所分子生物研究部部長を経て、2000年2月株式会社メディビック設立及び代表取締役社長に就任。

－ 取締役 渡邊 祐也

- ・ 新光証券営業部門を経て、デジタル情報産業部に配属。IT、インターネット関連のベンチャー企業に対する株式公開支援、IRに関するアドバイス、企業紹介、資本業務提携の提案など企業価値拡大の支援、未公開企業への出資、キャピタルゲイン獲得など、数多くの実績を持つ。

4. メディビック・アライアンス役員紹介(2)

－ 監査役 山下 達弘

- ・ HSBC証券日本株式調査部(エレクトロニクスチーム)にて企業分析、コーポレート・ファイナンス業務等に従事。M&Aコンサルティング会社等を経てイー・トレード証券インベストメント・バンキング部においてSBIグループの買収・業務提携案件、新興上場企業や未上場企業のM&Aアドバイザー・資金調達等を含む財務戦略支援活動を担当。早稲田大学教育学部卒。中央大学大学院経済学修士課程修了。

－ 監査役 野津 克忠

- ・ 藤沢薬品工業(株)企業研究開発本部配属。NIH(USA) Dr.J.Axelrod研究室にて、生化学的、薬理的性状の研究に従事。藤沢薬品工業(株)研究開発本部、研究本部にて主任研究員を務め、あらゆる疾患領域に関わる研究活動に従事。
- ・ 藤沢薬品工業(株)米国法人にて、ベンチャー企業への投資業務立ち上げ、数百社以上の企業評価を行う。大手製薬企業経営戦略本部にてライセンス担当。その後、中堅製薬企業にて取締役研究所長を歴任。2005年メディビック入社。当社研究開発戦略室所属。

－ 監査役 富岡 和治

- ・ 大和証券株式会社公開引受部を経て、有限会社ディスクロージャー(現 株式会社ディスクロージャー)を設立、代表取締役に就任。大和証券時代にはNTTデータ、第二電電(現 KDDI)などの大型上場を手がけたほか、通算50社以上の株式上場業務に従事する。2003年5月株式会社メディビック取締役に就任。株式会社インボイス監査役を兼務。

5. メディビック・アライアンス アドバイザー紹介

－ 大野聖二 <大野総合法律事務所 代表弁護士>

- ・ 1985年 東京大学法学部卒業。1991年司法修習終了。ユアサハラ特許弁護士事務所入所。ジョージワシントン大学法律大学院法学修士号（特許・知的財産法専攻）取得。Finnegan Henderson Garret & Dunner (Washington D.C. Office)事務所入所（アソシエイト弁護士）。1995年ニューヨーク州弁護士登録。1996年ユアサハラ法律事務所に復帰。2000年大野総合法律事務所開設。

6. 事業内容



- 投資事業
- ファンド事業
- 投資育成事業
- M&Aアドバイザー事業

6-1. 投資事業



メディビック・アライアンスはベンチャーキャピタル投資、プライベートエクイティ投資など総合的な投資業務を行っています。

■ 投資方針

<投資対象カテゴリー>

1. 創薬、バイオインフォマティクス、再生医療等、バイオベンチャー企業
2. ライフサイエンス・医療関連ベンチャー企業
3. バイオ業界もしくはライフサイエンス業界へ参入を検討している企業

<対象地域>

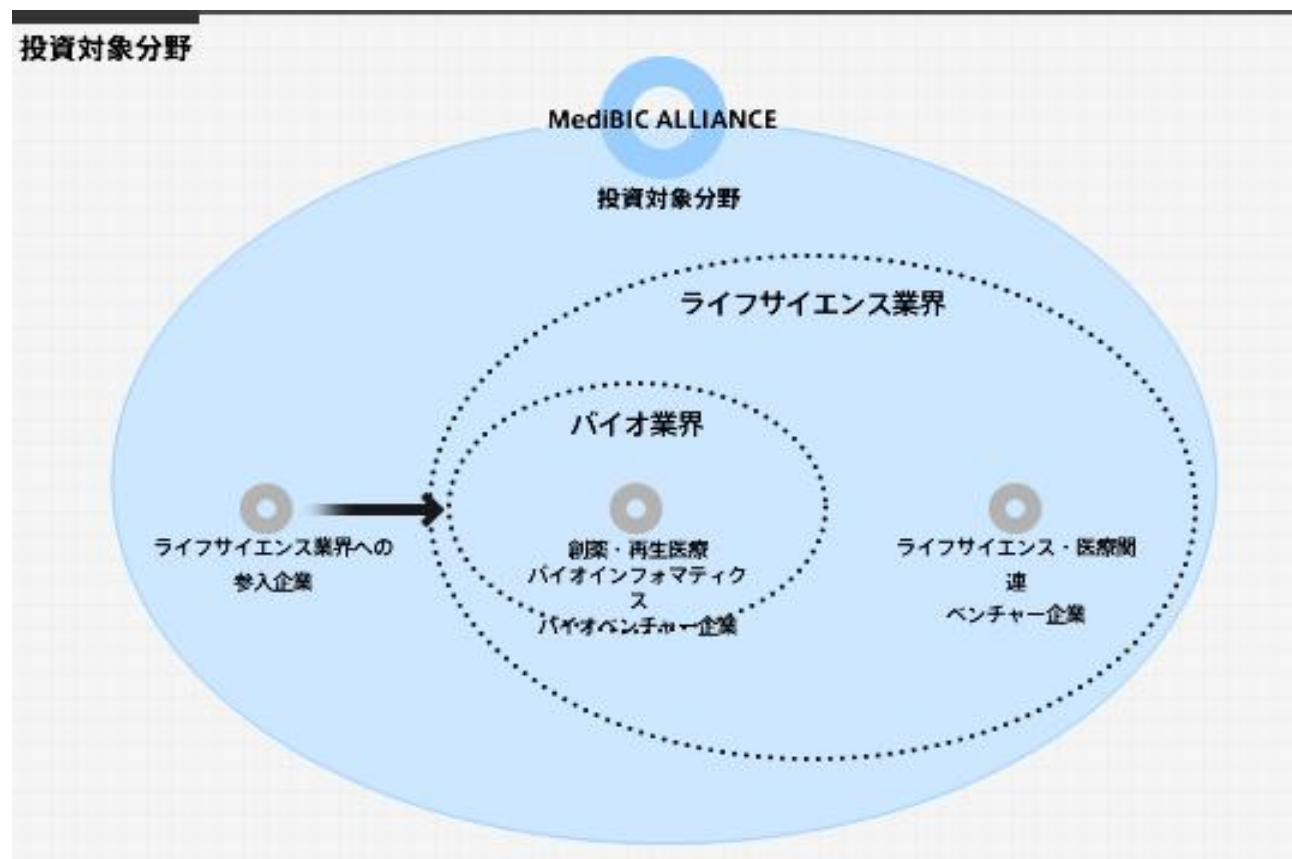
日本、アジア、米国、欧州など

<対象ステージ>

スタートアップ、アーリーステージ、メザニン、プレIPOなど、全てのステージ

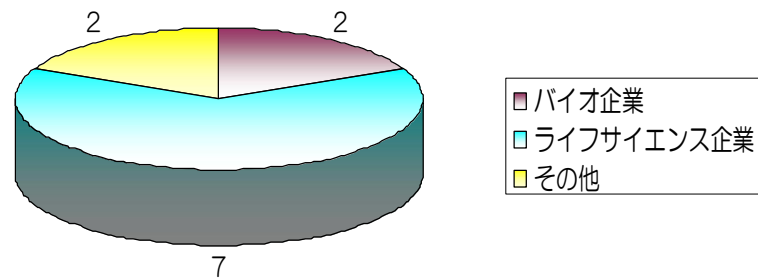
6-2. 投資対象分野(1)

世界的な産業のボーダーレス化に伴い、既存のライフサイエンス産業のプレーヤーだけでなく、他産業からの参入を検討している企業への投資も行っています。

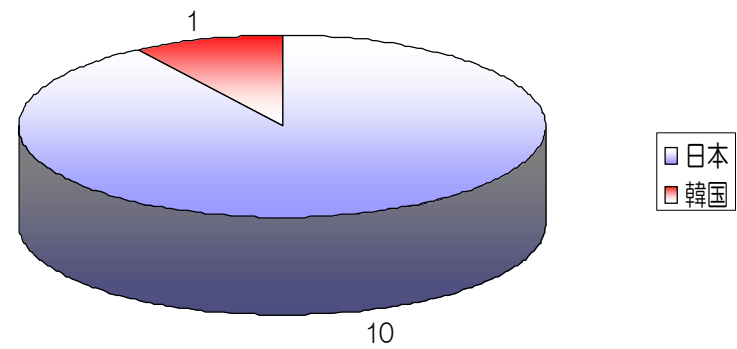


6-2. 投資対象分野(2)

投資対象分野



投資対象地域



2005年9月現在

6-3. 投資先一覧(2005年9月末現在)

	(株)ピクセン	創香支援、代替医療支援サービスの提供
	Crystal Genomics Inc.	創薬及び創薬支援サービスの提供
	(株)リンフォテック	癌免疫療法に関する研究開発
	(株)ファンドクリエーション	ファンド開発及び企業再生ビジネス
	ハイクリップス(株)	治験実施機関へのサポート業務(SMO)
	コスモバイオ株式会社 COSMO BIO CO., LTD. ※2005年9月27日JASDAQ上場	研究用試薬、機器、臨床検査薬等の輸出入及び国内販売
	キューオーエル(株)	個人の生活向上を支援する情報通信機器、システムの企画
	(株)メディカルソリューションズ	医療機器の輸出入、販売、コンサルティング
	コアフロント(株)	バイオマテリアル・光バイオ・技術先端医療用具の開発、販売
	(株)日本メディカル・パートナーズ	医療機関と金融を融合化、病院再生・医療コンサルティング
	(株)アインテスラ	生活・環境分野での新商品開発、半導体素材に関する研究開発

6-4. アジア企業への投資戦略

メディビック・アライアンスは、アジア（特に韓国及び中国）における投資事業を拡大し、収益拡大を目指します。

＜アジア市場における当社の強み＞

- ◆ アジアのVCとのコネクション
- ◆ 韓国有力VBに対する投資実績（CG社）
- ◆ バイオ業界を熟知したメディビック・グループ及びサイエンスアドバイザーによる高い目利き能力

6-5. 韓国市場の動向について

- ◆ 韓国KOSDAQ市場は、これまで経常利益のある企業のみを上場を認めていましたが、2005年3月より上場基準を改正し、技術力のあるベンチャー企業については利益が無くても上場を認めることとなりました。
- ◆ 上記変更にともない、韓国有力バイオベンチャー企業3社の上場が予定されています。

Crystal Genomics （創薬及び創薬支援サービス）

Viomed Laboratories （遺伝子治療等）

Bioneer Corporation （研究用試薬・製造販売）

6-5. 韓国市場の動向について

<IPOパフォーマンス例>

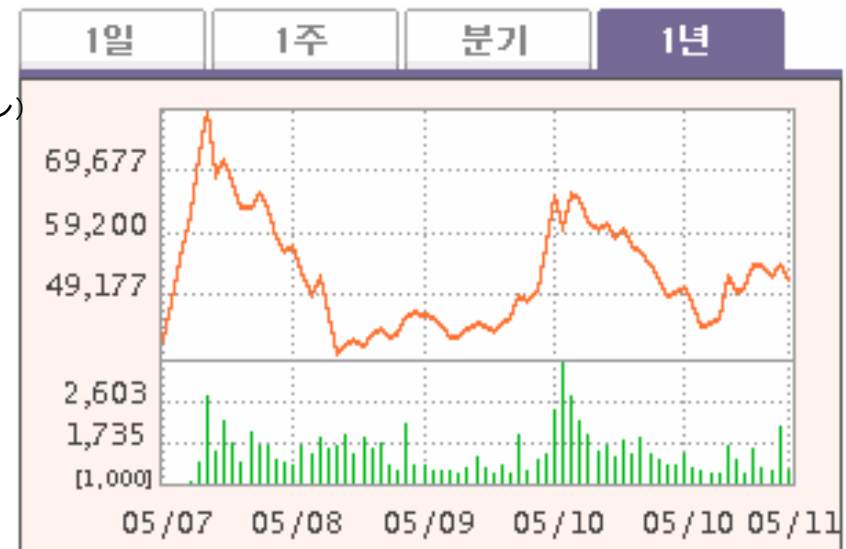
MEDIPOST CO., Ltd. (2005年7月29日IPO)

公募価格	18,000ウォン
初値	40,000ウォン
高値	82,300ウォン
11/17現在	48,300ウォン

単位
(韓国ウォン)
1ウォン
≒0.11円

※日本国内同様、韓国KOSDAQ市場におけるバイオベンチャー企業の人気は高まっています。

2005年7月29日以降の株価推移（日足）



6-6. 韓国市場における当社の投資実績

Crystal Genomics Inc.

事業内容：創薬及び創薬支援サービス

設立：2000年7月

※メディビック・アライアンス韓国投資第1号

＞韓国KOSDAQ市場への上場予定

- ◆ 上場予備審査請求（2005年7月）
- ◆ 上場予備審査承認（2005年10月）
- ◆ 金融監督院へ有価証券申告書提出（2005年11月）
- ◆ 公募価格決定（2005年11月下旬～12月中旬）
- ◆ IPO（2005年12月中または1月）

7-1. ファンド事業の内容

メディビック・アライアンスはファンドマネージャーとして多彩な投資ファンドの運営を行っています。また、投資信託に対するファンドアドバイザー業務も行っています。

Fund Management 約12億円 (10月末現在)
(管理・運用・助言ファンド総額)

■ ファンドの種類

- ・ 先端技術ファンド
主に情報収集を目的とし、特定技術分野に投資を行うためのファンド
- ・ 個別ファンド
特定企業に投資を行うためのファンド
- ・ VCファンド
複数の投資家から資金を集めて、複数の企業に投資を行うためのファンド

7-2. 先端技術ファンド実績

特定技術分野にのみ投資をするファンドを設立。メディックグループは、技術面及び財務面から、目利きとしての役割を果たします。

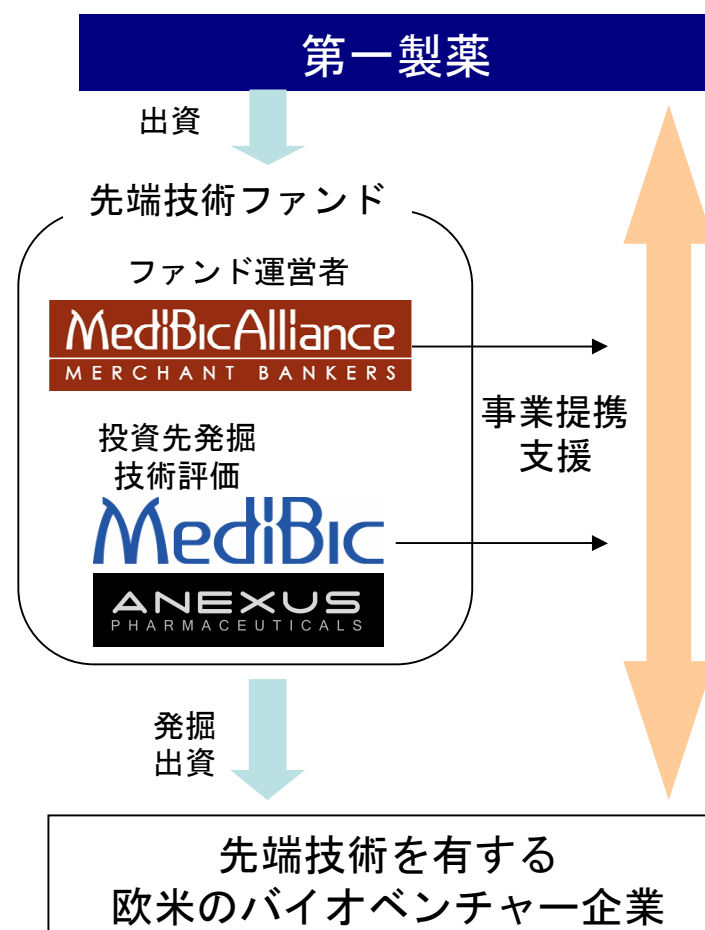


この度、㈱メディックの100%出資子会社である㈱メディック・アライアンス（代表取締役社長：小林 光、本社：東京都千代田区）と第一製薬㈱（代表取締役社長：森田 清、本社：東京都中央区）は共同で、医薬品開発ベンチャー企業を投資対象とした投資事業組合を設立することで合意いたしましたのでお知らせいたします。

本ファンドは、医薬品創製の技術に特化し、技術情報の収集と研究提携の実現を目的としております。ファンド規模は総額約7億円とし、米国及び欧州等の医薬品開発技術を有するベンチャー企業に対して投資を行います。投資対象の選定は、㈱メディック・アライアンス、第一製薬㈱および科学的見地から専門的アドバイスを行うサイエンティフィック・アドバイザーで構成される投資委員会を設置し、検討します。本ファンドの投資対象は、第一製薬が必要とする特定技術領域のバイオベンチャー企業に限定しており、当該技術領域における効率的な技術情報の入手が可能であると考えております。

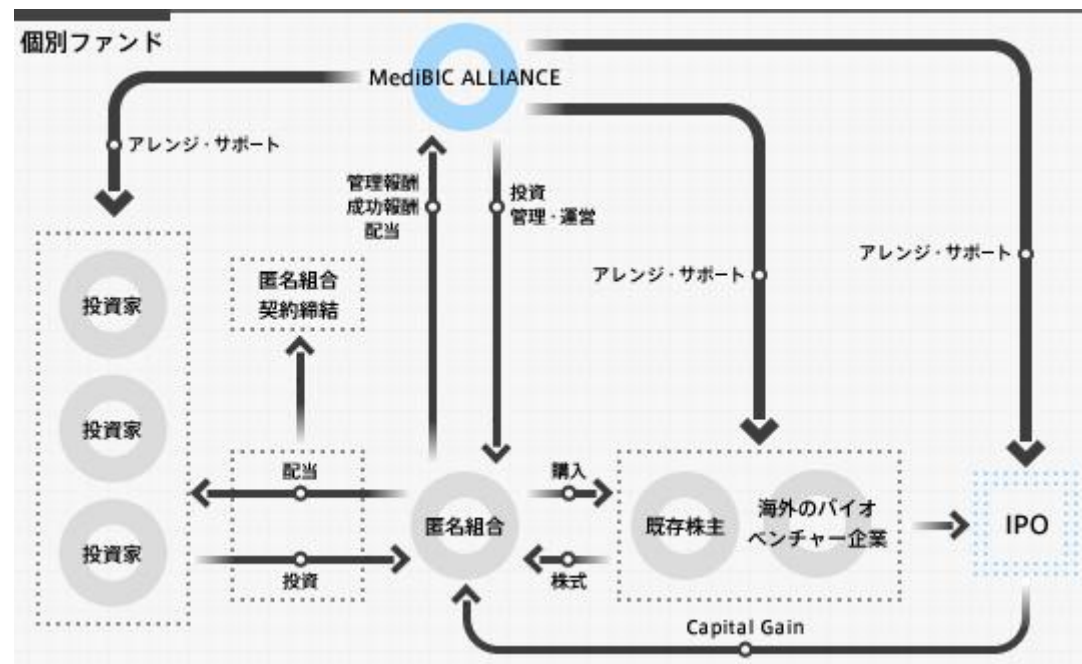
㈱メディック・アライアンスでは、米国でファンド設立・運営の経験がある大手製薬企業出身者、金融機関でのファンド運営経験者等の積極的な採用を行い、ファンド運営のための組織体制を構築してきました。本ファンドに続き、今後も製薬企業や事業会社等のニーズに応じて、様々なファンドの設立および運営を行っていく予定です。

第一製薬㈱は、当該ベンチャー企業から医薬品開発に関わる技術情報を早期の段階で入手し、その技術を有望と判断した場合には、当該ベンチャーとの研究提携により技術導入を図ります。



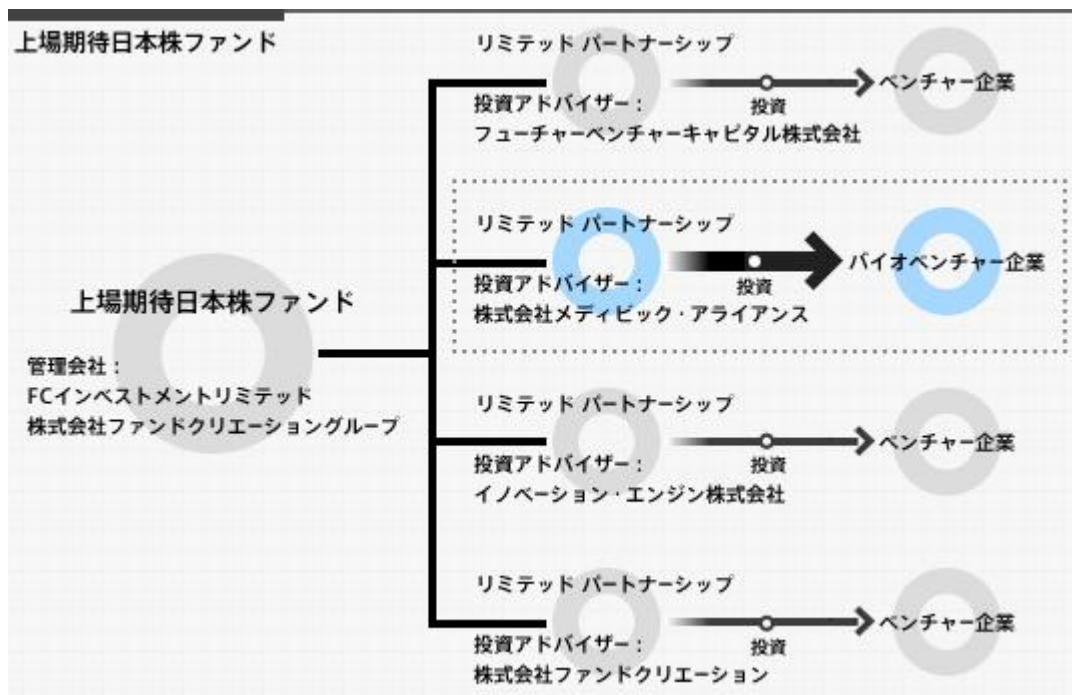
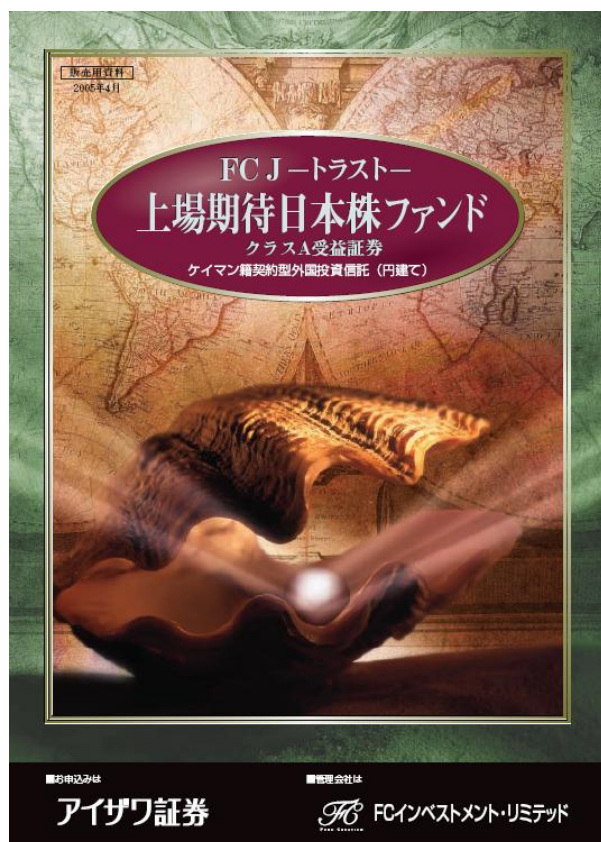
7-3. 個別ファンド実績

メディビック・アライアンスは、投資対象を1社のみとする「個別ファンド」の設立を行います。発行企業サイド及び投資家サイドをつなぐアレンジャーとしての役割を担います。



7-4. 投資アドバイザーとしての実績

(株)ファンドクリエーションが設立する投資信託のアドバイザーとして選任されました。(バイオ業界の目利きとしての役割を担います)。

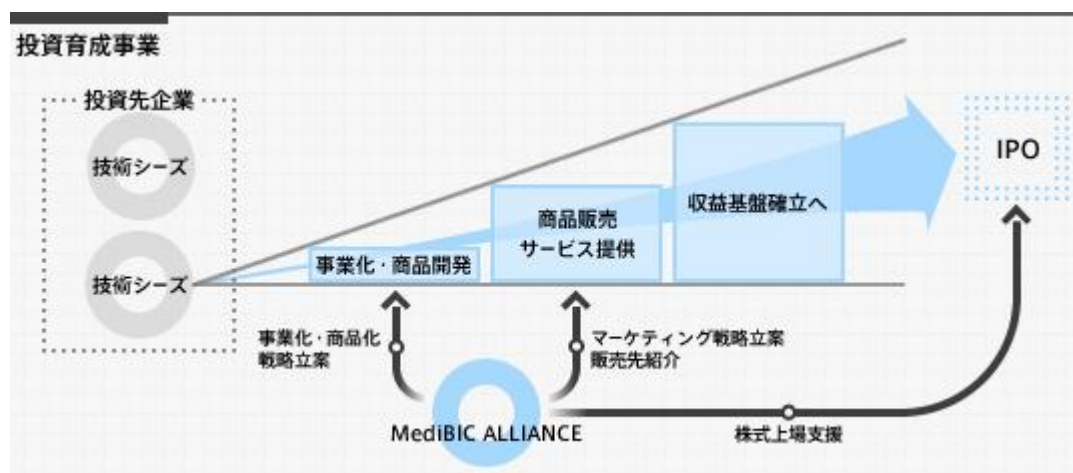


8. 投資育成事業

メディビック・アライアンスは経営指導や営業支援などの投資育成事業を通じて、ベンチャー企業の成長を支援しています。

■ コンサルティング内容

- ・ 経営指導
- ・ 事業計画・事業戦略の立案
- ・ 営業支援
- ・ 資金調達のアレンジ
- ・ ライセンス契約・代理店契約獲得支援
- ・ 株式上場支援

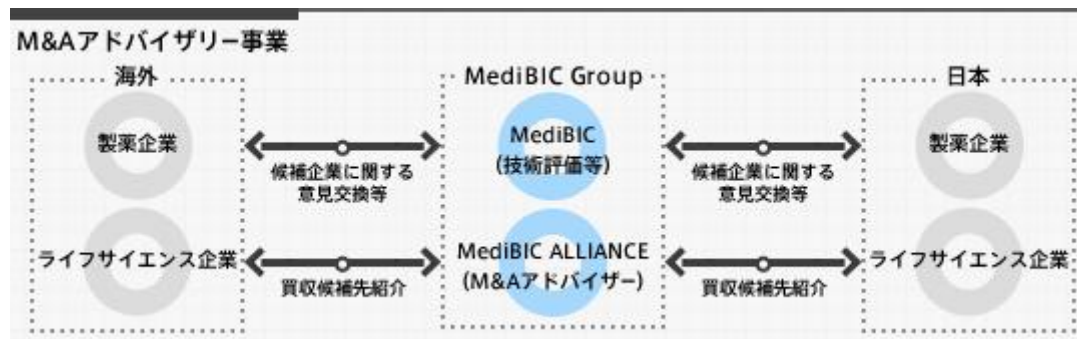


9. M&Aアドバイザー事業

メディビック・アライアンスはM&Aの総合的なアドバイスを行っています。買収候補先の選定および紹介、買収後の企業価値向上のための、M&A後の統合プロセスなどを顧客の視点からアドバイスを行います。主に外資系製薬企業の日本進出などをお手伝いしています。

■ M&A事業内容

- ・ 買収候補先の選定および紹介
- ・ 企業の買収・合併（M&A）及び事業提携等の仲介、斡旋
- ・ 企業提携戦略構築
- ・ 企業の評価及び条件交渉



10. 今後の主な事業展開



- ★ 日本含むアジアの企業を対象とした投資事業の拡大
- ★ ベンチャーファンドの組成 2006年度目標 30億円
- ★ 海外企業の日本国内進出のアドバイザー

[illegible]

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, typical of primary school writing paper. The lines are evenly spaced and run across the entire width of the page. There are no margins, text, or other markings present.

MEMO



This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

株式会社メディビック・アライアンス
2005年11月22日
個人投資家向け会社説明会 資料
<http://www.medibicalliance.com>

MediBicAlliance
MERCHANT BANKERS